



KSKQ どかどか No.305

ぽぽんがぽん news



笑顔あふれ つながりあえる社会へ ～ひとりひとりが自分らしく生きてゆけるために～

年頭のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は、いろいろとご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

振り返れば、1996年「地域で自立生活をつくる会ぽぽんがぽん」を立ち上げた当時は、まだまだ地域福祉サービスはほとんどなく、障がい者は親がかりの生活を強いられ、親亡き後は入所施設に入るしかない状況でした。

転じて2026年現在、地域福祉サービスはずいぶんと増えました。課題は多くあるものの、必要なサービスが増えて多少なりとも選択肢ができたことは良いことだと思っています。

しかし、いわゆる強度行動障害のある重度知的障がい者の置かれている状況を見れば、どうでしょうか。グループホームが増えてはいるが受け入れてもらえない現状があります。そして、障害福祉政策では施設からの地域移行の必要性が謳われているにもかかわらず、一向に地域移行は進まず入所施設が必要だという論調が知的障害当事者の声（思い）とは別に高まっているのが現状です。

わたしたちが目指してきたことは、どれだけ重度の障害があっても必要な支援を使って地域で自分の決めた生活を送ることができる社会の実現です。

30年前と比較すれば、身体障がい者の重度訪問介護を使った自立生活はずいぶんと増えました。いっぽうで、強度行動障害のある重度知的障がい者が重度訪問介護を使って自立生活することは、ひろがっていません。

ぽぽんがぽんでは、強度行動障害のある重度知的障がい者の自立生活（支援付一人暮らし）支援をこれまで取り組んできています。そして、自立生活に限らず、わたしたちの支援観の根底には強度行動障害のある重度知的障がい者「当事者主体」の支援があります。

この目指すべき「あるべき姿」と「現状」の大きなギャップのあるなかで、あるべき姿を忘れずに今年も取り組んでいきたいとします。

最後に、いつもご愛読いただいているみなさまのご健康とご多幸をお祈りしますとともに、本年も引き続き、社会福祉法人ぽぽんがぽんへの応援をよろしくお願い申し上げます。

・年始のご挨拶

・ピープルファースト大会の感想

・事業紹介(ぽかぽか・どかどか)

・きょうのNANIKA

・後援会より報告

・寄付金等のお礼

・編集後記

今月の内容

社会福祉法人ぽぽんがぽん 理事長 太田吾郎

お願ひしう
申しあげます
本年も



ピープルファースト i n 神奈川に参加しました

開催日時：11月29日(土)13:00～17:00 30日(日)9:30～12:00 参加者：1157名

一部：～基調講演～津久井やまゆり園事件から条例に至るまで

～シンポジウム～自分らしく生きることができる社会の実現

二部：虐待・脱施設化について 遠藤牧場のこと/厚生労働省との交渉、世界の入所施設のこと

三部：1分間スピーチ

交流会：出演 横浜中華学校校友会国術団／あじまー

分科会：「障害者権利条約」に参加

今年もやまゆり園

神奈川県やまゆり園のお話がありました。

入所施設をやめて G H をつくれるだけつくる。

ぼくの思いはスタッフ 3人 (泊まる人+会話する+見守り)

サポートしているスタッフを増えて下さい。

交流会に参加しました。

名刺交換をいっぱいしました。

横浜中華学校校友会国術団の人が

獅子舞を 4人披露してました。

頭をガブリしてくれた。

来年はいいことある。

あじまーは沖縄の曲を 3曲し

ました。全員大熱唱



障害者権利条約の分科会に参加した。
虐待、入所施設+地域移行の内容
があり、ぼくは「小さい頃に吹田の家
で預けられて、お兄ちゃんから腹を

なぐられてふまれた経験した。」「辛かった。」話をしました。

来年は11月23日(月)～24日(火)の2日間、香川県高松市、全員参加し
ます。(鎮山伸吾)



ピープルファースト全国
大会に参加される鎮山
さんに同行しました。

朝早い出発でしたが、会場に着いたのは開始直前。

受付の際に急遽大阪代表のプラカードを持って入場するこ
とになり、ドキドキの入場の後、ホッとしてから慌ただしく
昼食を摂られました。



今回は、ホール形式の会場ではなかったので、後ろの方の席からは、ステージ側が少し見えにくいというのが残念だったところ。交流会はテーブルの数が少なく、ぽぽんがぽんからの参加者で、まとまることができなかったですが、何とか食事も摂れました。獅子舞や三線演奏も楽しまれ、PF大阪のメンバーさんともお話しされ、楽しませていました。

二日目の分科会は、「障害者権利条約」についての部会に参加。一人ずつ感想を話す際にも、自分の経験を通しての思いをお話されました。

閉会式後、新幹線の時間までをどう過ごすか、当初はナポリタン発祥の「パンチョ」に行くことを希望されていましたが、ホテルの朝ごはんではナポリタンを食べたこともあり、加登の提案で赤レンガ倉庫へと海を見ながら散歩。

が、ウィンドーショッピングに全く興味のない吾郎さんと鎮山さんを連れてのガイドは成立せず、昼食を摂るだけで終わってしまいました。

・・・と、慌ただし二日間ではありましたが、オンラインサロンの画面を通して話を聞いていた方とも直接ご挨拶ができたり、大阪のメンバーさんともお話できたりと楽しく過ごすことができました。

伸くん、来年も頑張って高松に行きましよう！！（加登めぐみ）

ピープルファースト in 神奈川が、11月29日(土) 30日(日)に開催されました。

29日の会場は横浜ベイホテル東急の大きな会場で、私たちが到着した時は、もうすでに満席でした。仲間は、1,000人規模の方が全国と海外から集まり、大阪からは、およそ 200人が参加

れていました。受付で、鎮山さんがプラカード持つ担当だったようで、初めて聞かされたようで、少し驚いていましたが、会場に入場される時には、堂々とプラカード持って行進されていました。全大会の基調講演で、津久井やまゆり園事件から条例に至るまで、講師は神奈川県知事の黒岩さんが講演されました。入所施設の建て替えをやめてグループホームの建設に変更されたことや「当事者目線の障害福祉推進条例～ともに生きる社会を目指して～」の話が分かりやすく具体的な説明でとても良かったです。ピープルファーストの仲間の皆さんが黒岩知事を後押しされており、当事者の取り組みの成果と感じました。茨木市でもピープルファーストの取り組みが出来るようにと思いました。(六條友聡)



いばらき自立支援センター「ぽかぽか」 いばらき自立支援センター「どかどか」

「ぽかぽか」は真砂玉島台、「どかどか」は五十鈴町にある、生活介護事業所です。

ぽかぽか・どかどかは、それぞれのメンバーが自分の生活や人生の「主人公」になり、それぞれが「わたし」を発揮できる場であることを目指しています。メンバーがいきいきと何かに取り組んだり、安心して過ごせる場であるように、メンバーとスタッフが一緒に考えていくことを大切にしています。

村上さんは、事務室に来て書類をファイルして、出て行くときに真顔でおならをプツとします。

中上さんは、他のメンバーやスタッフが慌てて物を落とすと大笑いします。

高原さんは、物を運ぶときにどのルートを歩くか、こだわりをもって決めています。

林さんは、地図の上に指をあて、スライドしながら距離を確かめています。

田川さんは、最近はホラー映画の動画をよく見えています。

平岡さんは、あまり座っていることがなく、立って周りのメンバーやスタッフのことを気にかけています。

鎮山さんは、今日も猫フィールドワークの結果を報告してくれます。

畑さんは、穏やかな雰囲気ですが実は毒舌がすごいです。

鄭さんは、マニアックな昭和ドラマの動画を嬉しそうに見えています。

中嶋さんは、回数が減ったけど週に1回はぽかぽかに来るようにされています。

それぞれが、ぽかぽかが自分の居場所になっていることの、小さいけど大事な印のように感じています。
(紙面の都合でぽかぽかの1階のメンバーのことだけを書きました)

ぽかぽか・どかどかは、2025年10月31日～11月5日にかけて、茨木市福祉文化会館で開催された「となりあうにわ」という現代美術の企画に参加しました。

事業所の中だけにいると、そこには「利用者」と「支援者」の関係しかありません。

でも会場では、参加したメンバーは「利用者」ではなく「作家」として名前を呼ばれていたように思います。

かつて3つあった作業所には、【「障害者」の生活をひろげる場】というタイトルがつけられていました。そこに込められた思いに今一度立ち返り、葛藤を続けながら、ぽかぽか・どかどかの取り組みを考えていきたいと思っています。

(文：山根康純)



会場で壁に絵を描く濱田さん



会場で箱に色を塗る田井さんと2人



きょうのNANIKA

018



ぽかぽか・どかどかに通う利用者さんの取り組みのなかで、
スタッフや、メンバー同士が「何かすごい」「何か良いなあ…」と感じた「何か」。
名前をつけたり説明してしまう前に、まず色んな人に見て欲しい、
そして一緒に考えられたら良いなと思います。



鄭さんの好きなものはいつもはっきりしていて、詳細まで具体的です。

ザ・ハンガマン、Gメン'75、西部警察、ザ・ガードマン、キイハンター、美空ひばりのロマンチックなキューピッド、ブルース・リー
燃えよドラゴン「ハンの手下対アンジェラ・マオ」…(鄭さんの動画リクエストから)

写真(↑)は鄭さんが描いた、石原裕次郎、ビール、キャッシュカード、魚、鳥、山根、タバコ、タクシー、ブルースリー、飛行機。

そして写真(↓)は送迎車から見る、NTT電波塔改め「炭木タワー」です(鄭さんが命名)。



(題字：林裕之さん 文：山根康純)



しゃかいふく しほうじん こうえんかい
社会福祉法人ぽぽんがぽん後援会

「つながりの会 ぽぽんがぽん」

昨年 10 月 26 日(日) 障害福祉センター「ハートフル」で「交流会・卓球」を開催。週末の行事が続いたこともあって、参加者は例年より若干少なかったですが、通常の卓球で試合形式にのぞんだり、当会考案の「スマートピンポン」でカップ等に入る点数で一喜一憂したり、終始賑やかで笑い声が絶えない時間でした。休憩時間にはお菓子をつまみながら日常の話を…。みんなで一緒に過ごす時間は中々ないので、日頃の様子を聞かせてもらったり楽しい時間でした。後片付けも参加者みんなの協力で早く終わることができました。



11 月 20 日(木)、茨木しょう会と共催で「重度の知的障がい・自閉症のある方の地域での一人暮らし」と題して、支援者の福井さんを講師に一人暮らしを始めて 25 年、昨年 2 月に亡くなられた奥原さえ子さんについての学習会を開催。お母さんの死をきっかけに外へ出れなくなり、作業所へも行けなくなった…。生活リズムの立て直し支援、通所、体験宿泊等を経て、一人暮らしに向けての取り組み。そこに至るまでの事業所、支援者の様々な思いや課題、苦勞の話の数々。日中はぽかぽかで仕事、夕方から翌朝の通所迄、土日は支援者の介護を受けて一人暮らしを続けてこられたさえ子さんが体調を崩し、通院・検査・入院に。体調の変化に気づかれた支援者、又、通院・検査時の本人、病院側とのコミュニケーション支援、「命を守るため」の手術を選択されるまでの情報提供、術後の生活…。闘病から最後は在宅での看取り…。関わられた支援者のさえ子さんにとって何が一番良かったのか？…の言葉がありましたが、さえ子さんの気持ちに終始寄り添い過ごされたこと、最善だったのではと感じました。入院中 24 時間の日中支援が必要になったが、行政に申請をしても「現在の支給量内で」、不足分はぽぽんがぽんで負担したとの話に、緊急時行政も何か寄り添ってくれる仕組みはないのだろうか、我が子が病気になった場合も同じように支援を必要とするのに…。と思いました。あの独特な後ろ向きで走る「さえ子さん走り」が見られなくなったのはさびしくとっても残念ですが、精一杯さえ子さんが生きた証を伺えた貴重な時間でした。(村上和子)



し え ん き ふ ていきょう
ご支援、ご寄付、ご提供ありがとうございました。

ねん がつ にち ねん がつ にち じゅんぷどう
2025年9月13日～2025年12月1日まで（順不同）

ゆうびんふりかえ つごうじょう おなまえ はんえい ばあい じょうきかん かぎり ずけいさい ごりょうじょう
郵便振替の都合上、お名前が反映できていない場合は上記期間に限らず掲載させていただきます。ご了承ください。

しゃかいふく しほうじん ぽぽんがぽん へのご寄付ありがとうございました
(“グループホーム”や“奥原さえ子さん人生史”へのご寄付を含みます)

金田倫文様 小野寺正子様 長谷川順子様 萩原英三様 村上一仁様 渡辺様 高原疆次様 匿名様

つながりのかい ぽぽんがぽん (こうえんかい) へのご寄付ありがとうございました

奥上千明様 村上和子様

【募金箱】

高原容子様 吉永英子様 水野昌和様

パン工房シャルドン様 ヘルパー派遣部門様

ぽぽんがぽん法人事務所

かん ぎゅうにゅう ていきょう
アルミ缶・牛乳パックのご提供
ありがとうございました

【アルミ缶】

浅野様 古川様 ハシオダニ様 藤本様 竹内様 林様

山内様 水野様 GH ピース様

作業所等へ持って来てくださった皆様

【牛乳パック】

萬谷様 ハシオダニ様 小川様 藤本様 竹内様 関西よつ

葉連絡会淀川産地直送センター様 作業所等へ持って来て下

された皆様 GH ピース様 GH 多歌多架様

ご寄付はこちらまでお願いします
<払込取扱票をご利用される場合>
口座記号番号：00930-0-212299
口座名称：社会福祉法人ぽぽんがぽん

<口座振込をご利用される場合>
銀行名：ゆうちょ銀行
金融機関コード：9900
店番：099
店名：〇九九 (ㇼ ㇿㇿㇿㇿㇿ)
預金種目：当座 口座番号：0212299
口座名称 (漢字)：社会福祉法人ぽぽんがぽん
(カナ)：フク) ポポンガボン

さえ子さん人生史や
グループホームへのご寄付
ありがとうございます！
引き続きよろしくお願いします！！



色鉛筆 (その他画材)

ご提供ありがとうございました

前回通信で掲載した提供のご依頼に対し、たくさんの方から
色鉛筆やその他画材の提供をいただきました。

ありがとうございます！！大事に使います！！



編集後記

奥原さえ子さん(享年51歳)が2025年2月24日にご逝去されてからもうすぐ1年が経とうとしています。2025年11月20日(木)には、法人・後援会・茨木しよう会関係者を対象に、さえ子さんの生きてきたことを振り返り、闘病中のコーディネーター・支援についての報告(学習会)をさせていただきました。講師を務めたヘルパー派遣の福井加奈から紹介した、「最期のときはさえちゃんがいつもみたいに自分のおふとんで眠って、『ああ、明日はぽかぽかに行き、みんなとなにしようかなあー』なんて、いつもどおりに明日がくるって信じながら旅立ってたいいな」というさえ子さんのお姉さんの言葉は多くの方の深くに届くものでした。また、さえ子さんを知る多くの方からお話を聞かせてもらったり寄稿いただき、さえ子さんの「人生史」を作成中です。そして、2026年2月21日(土)には障害福祉センターハートフルにて、「偲ぶ会」を催したいと考えております。そこで「人生史」もご覧いただけるよう準備を進めております。本原稿作成時点で「偲ぶ会」の企画が固まっておらず、詳細のご案内が出来ず申し訳ありません。追ってホームページやSNS等でお知らせ出来ればと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

みずのまさかず
(水野昌和)

スタッフ募集



男女問いません

【仕事内容】 知的障がいのある男性利用者さんのグループホームです。宅配食材を使用した夕食作りと、買い出した食材を使用した朝食づくりその他家事や、帰宅した利用者さんの迎え入れや、利用者さんとのコミュニケーション、時間帯によっては見回り戸締り等をお願いします。

【勤務日時】 16時～19時、19時～22時、17時～20時

【勤務地】 茨木市三島丘

【時給】 1,177 円～

【連絡先】 072-623-9220(「通信の求人を見た」とご連絡ください)

【各場連絡先】

- 法人本部、ヘルパー派遣、グループホーム窓口、相談支援
〒567-0888 茨木市駅前 1-4-14-3F
●法人本部 Tel 072-623-9202 (9:00～18:00)
●グループホーム窓口 Tel 072-623-9202 (9:00～18:00)
●ヘルパー派遣 Tel 072-623-9205 (9:00～18:00)
●相談支援 Tel 072-623-9210 (9:00～17:00)
Fax 共通 072-623-9203
- いばらき自立支援センター「ぽかぽか」(8:30～17:30)
〒567-0850 茨木市真砂玉島 8-20
Tel 072-635-5762 Fax 072-635-5763
- いばらき自立支援センター「どかどか」(8:30～17:30)
〒567-0842 茨木市五十鈴町 7-29-1FS
Tel 072-637-6882 Fax 072-637-6883

法人 HP
<https://popongapon.com/>みやすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。
(画像取り込みページを除く)

編集人:「障害者」の生活をひろげる場「どかどか」
(社会福祉法人ぽぽんがぽん)
TEL(072)623-9202(お問い合わせはこちらまで)
〒567-0888 茨木市駅前 1-4-14-3F

発行人:関西障害者定期刊行物協会
〒543-0015 大阪市天王寺区真田山町 2-2-東興ビル 4F
定価:50円

